



みなさん、こんにちは。

今日は、業務紹介第16弾として、土木分野のうち港湾・空港系の業務内容を、関東地方整備局 港湾空港部 港湾計画課の坂井課長補佐（入省9年目）より語ってもらいました！



坂井課長補佐（入省9年目）と職場から見える横浜港

1. 土木分野のうち港湾・空港系業務の国交省における役割を教えてください。

「日本の玄関口を強化し、国民生活の生命線を守る」、これが港湾・空港整備に課せられた使命です。島国である日本は、経済活動に必要な物資を港湾・空港を通じて輸出入しており、実は、重量ベースで約99%、金額ベースで約7割もの輸出入貨物が港湾を通じて運ばれています。身の回りにある衣服・食料・機械や電気・ガスのもとになる資源など、多くのものが海外で生産されますが、船で輸送され、港湾を通過して皆さんの所にやって来るのです。また空港は、日本各地そして海外との交通結節点を担い、国内線だけでも年間のべ約1億人の方々が航空機を利用しており、地方間の移動や離島との輸送を支えています。

私達、港湾・空港系職員は、生活を支える重要な輸送インフラである港湾・空港について、物流・ビジネス・観光などのニーズに対応した機能強化や、頻発する大規模自然災害に対する国土強靱化に向けた防災・減災対策等に関する企画・立案などを行っています。

2. 現在の目玉施策を教えてください。

港湾分野では、国際コンテナ戦略港湾政策を推進しています。基幹航路と呼ばれる北米・欧州等の海外市場とを結ぶ航路について大型コンテナ船の寄港を維持・拡大するため、京浜港や阪神港において、大型船を受入可能な水深16～18m級の大水深岸壁の整備を進めています。また、コンテナターミナル周辺の混雑緩和に向けて、情報技術の活用によりゲート処理等の効率化やセキュリティ向上を図るためのCONPAS®（Container Fast Passの略）と呼ばれるシステム導入などを進めています。

さらに、港湾の水域を活用した洋上風力発電の導入促進や、サイバーポートの構築、AIターミナルの実現をはじめ、将来に向けた施策も進めています。詳しくは『港湾の中長期政策「PORT 2030」』の本文・動画をチェックしてみてください。

(URL: [http://www.mlit.go.jp/kowan/kowan\\_PORT\\_2030.html](http://www.mlit.go.jp/kowan/kowan_PORT_2030.html))



また、空港分野では、主要空港の機能強化や空港アクセス改善に向けた取組を進めています。例えば、羽田空港では本年3月に飛行経路の見直しにより年間発着容量が約49万回に拡大されたところですが、羽田空港への接続性向上のため空港アクセス鉄道整備に向けた検討を進めるとともに、地震発生後の影響を最小限に留めるための空港施設の耐震性の強化等に取り組んでいます。

3. ご自身が担当されている業務内容について教えてください。

現在、港湾計画課という部署で、港湾整備事業の実施・継続等の妥当性を評価する事業評価と、管内港湾の貨物量などの統計情報を港湾管理者から集約し、政策に活用可能な基礎データとしてとりまとめる調査業務を担当しています。日頃から、事業の進捗状況や、工法の検討、供用後の利用について関係者と情報を交換しながら業務に取り組んでいます。

4. 苦労する点や、やりがいについて教えてください。

港湾分野は、国や港湾管理者（自治体等）だけでなく、利用者である船会社やターミナルオペレーター、港湾運送事業者など、多くの関係者の協力により大きなプロジェクトが進みます。一方、事前の調整や方針の擦り合わせにおいて、全体計画、工法、スケジュール、予算メニュー、法制度上の課題などを踏まえ、取りうる選択肢のメリット・デメリットを考えたり、問題点や意識共有を図るなどの面で、大変と感じる場面はあります。また、工事の遅延や災害・事故など、突発事象が発生することもあるため、限られた時間で対策を検討するなど、スピード感とクオリティ意識を持って仕事に取り組む必要もあります。

こうした中でも、きちんと調べて練られたアイデアであれば、若手職員のものであっても、チームで考えた上で柔軟に取り入れていく風土もありますし、新たな解決策が見つかったり、関係者との合意ができた時には、やりがいや達成感を覚えます。

5. 国土交通省を目指す方へのメッセージをお願いします。

港湾・空港は国民生活の生命線を担う重要インフラですが、もし、これらの輸送インフラが停止したり、利用者のニーズに合わない機能のまま進化が止まるとしたら、人々の生活の質も確保できないでしょうし、日本の社会・経済も円滑に機能しないでしょう。こうした事態を回避し、国民の生活水準の向上や産業振興につなげるために、政策を具現化できるのが国土交通省の港湾・空港系業務の醍醐味だと思います。生活に身近な分野で仕事をしたいと思う方など、興味を持たれた方は、ぜひ一緒に働いてみませんか？



羽田空港全景（左）と、横浜港南本牧ふ頭（MC-1,2）（右）